

## 川上宏奨学基金報告書

✚ 論文タイトル 「大学生によるコミュニティ FM 運営の可能性」

### ✚ 概要

近年日本では、災害時に情報発信を行うコミュニティ FM が注目されている。その数は増え続けており、2019 年 2 月現在、コミュニティ FM は 325 局存在している（日本コミュニティ放送協会 2019）。筆者が論文を書き上げた 2018 年 12 月からわずか 2 か月で 3 局増加していることから、今この国でコミュニティ FM が必要とされていることが伺えるだろう。

さて、そんなコミュニティ FM の中には、大学生が運営に携わるものもある。広島経済大学の学生が運営する FM ハムスターがその一つだ。大学とコミュニティ FM、また学生とコミュニティ FM の間に、あまり関係性があるようには思えないが、大学生がコミュニティ FM の運営に関わることにはどういった可能性があるのだろうか。

第 1 章では、「大学が運営するコミュニティ FM」と題し、他の大学生が運営に携わるコミュニティ FM 3 局（FM エヌ・ワン／FM 甲府／湘南マジックウェイブ）と、FM ハムスターとの比較を行った。そして、そこからコミュニティ FM の役割について検討した。

コミュニティ FM は、市区町村単位または政令指定都市の行政区単位を放送地域としている放送局である（貫名 2012：40）。またコミュニティ FM の役割は、「地域密着、地域住民参加、防災対応・災害発生時における情報発信」である（貫名 2015：2）。ただ、それ以前に、コミュニティ FM には重要な役割があると考えられる。それは、日常から地域との間に深い信頼関係を形成することである。なぜなら、普段から地域との繋がりがなければ、緊急時に情報を発信しても市民に聴いてもらえないためだ。

そして、大学とコミュニティ FM の間には「地域」という共通のキーワードがあることがわかった。多くの知識と情報が集約し、学生・教員どちらにおいてもさまざまな背景を持った人々が集まっている大学は、地域との連携がなければ成り立たないコミュニティ FM にとって有効である（志柿 2017：128）。また大学も、コミュニティ FM に関わることで地域貢献になる（志柿 2017：128）。つまり、大学によるコミュニティ FM の運営は、コミュニティ FM にとっても、大学にとってもメリットであるということだ。

さらに、FM ハムスターと、他 3 局の学生が運営に携わるコミュニティ FM との比較を通し

て、前者と後者には大きな違いがあることが判明した。それは、前者が自局制作番組のすべてに学生が携わっているのに対し、後者は自局制作番組の一部を学生が担当していることである。

第2章では、「FM ハムスターと広島土砂災害」と題し、2014年8月20日に発生した広島土砂災害後のFM ハムスターの活動について取り上げた。同局は、災害発生当日から災害対策本部が解散となった12月26日まで、およそ4か月間緊急放送を行った。緊急放送では、SNSでの情報収集および発信、現地取材、他メディアへの出演など、さまざまな方法で災害に関する情報を発信し続けた。

同局の学生らは、まず彼ら自身が災害の被災者であるにも関わらず、市民のことを優先して活動を行った。さらに、被災者らが都市部から訪れるマスコミに対し警戒心を抱いてしまう中、「地元の大学生」という存在が安心感を与えていたこともわかった。一方で、行政からの情報が寡少であったことや、災害から4年半が経過し、当時緊急放送を行った学生が一人も残っていないという懸念点も明らかになった。

第3章では、「FM ハムスターの日常」と題し、筆者が同局の所在地である広島経済大学に足を運び、インタビュー調査および参与観察を行った結果を論じた。また、現地調査の結果から、同局への提言をも述べた。

インタビュー調査は、同局の中心となって活動してきた学生2名、教授1名、パーソナリティとして活動している市民2名の、合計5名に対し行った。この結果から、同局は、学生が挑戦したいと思ったことがすぐに実践でき、番組の進め方などに堅苦しい決まりがないなどのメリットがあることがわかった。一方で、リスナー層の特定ができていないことや、ミキサー（音響担当者）がパーソナリティ（話し手）の話に対し、リアクションをあまりしていないことなどの改善点も明らかになった。

参与観察は、同局の収録番組1つ、生放送番組2つの合計3つの番組に対し行った。実際に番組が放送される様子を目にし、筆者が最も気になったのが、インタビュー調査で明らかになったパーソナリティとミキサーの関係性についてであった。

以上の結果から、まずFM ハムスターでは、学生のやりたいことと、リスナーが聴きたいと思っていることを擦り合わせる必要があるだろう。そしてそのためにも、リスナーの性別や年齢などの特徴を簡単に知ることができる、インターネットでの放送も視野に入れる

ことを提言した。リスナー層の特定ができれば、誰に向けてどういった番組を放送すれば良いのかを明確にできる。そしてインターネットでの番組聴取ができるようになることで、インターネットでしかラジオを聴くことができないという人も新たなリスナーにできる。さらに、リスナー増加によって、同局の学生らに「多くの人が放送を聴取している」という意識が生まれれば、モチベーション向上にも繋がる。

第4章では、「まとめと考察」と題し、論文の問いの答えと考察を論じた。大学が持つ地域に根差した環境と、人の入れ替わりが激しいが故に生まれる自由度の高さを兼ね備えていることこそが、大学生が運営するコミュニティ FM の可能性であると考えられるだろう。

最後に、先述したコミュニティ FN の役割である「地域密着、地域住民参加、防災対応・災害発生時における情報発信」（貫名 2015 : 2）についても一度考えた。そして、FM ハムスターへ、このうちの一つである「地域住民参加」をより積極的に行うことを提言した。

## 引用・参考文献リスト

- 貫名貴洋. 2012. 「大学が出資・運営に関与しているコミュニティ FM 放送の現状と課題について——FM エヌ・ワン, FM 甲府, FM ハムスターの比較を通して」『広島経済大学経済研究論集』35 巻 1 号. 39-56 頁.
- . 2015. 「2014. 8. 20 広島土砂災害, コミュニティ FM は何を伝えたか」『日本マス・コミュニケーション学会・2015 年度春季研究発表会・研究発表論文』([http://mass-ronbun.up.seesaa.net/image/2015spring\\_E1\\_Kanmei.pdf](http://mass-ronbun.up.seesaa.net/image/2015spring_E1_Kanmei.pdf)) (2019 年 2 月 12 日最終アクセス).
- 松浦さと子編著. 2017. 『日本のコミュニティ放送——理想と現実の間で——』晃洋書房.
- 日本コミュニティ放送協会. 2019. 「コミュニティ放送とは」JCBA 日本コミュニティ放送協会ホームページ(<http://www.jcba.jp/community/>) (2019 年 2 月 12 日最終アクセス).
- 志柿浩一郎. 2017. 「大学が関わるコミュニティ放送」松浦さと子編著『日本のコミュニティ放送——理想と現実の間で』晃洋書房. 119-131 頁.